

[地域振興]課 経営計画書（総括表）

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H25 年度計画額（単位：千円）		H25 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	広報・広聴事業	B	10,665	4,189	0.6	0.5
2	地域情報化推進事業	B	1,788	347	0.3	0
3	コミュニティバス運行事業	A	48,105	8,201	0.5	0.3
4	まちづくり活動推進事業	A	11,436	10,550	1.4	0.1
5	活動団体支援事業	B	9,552	540	0.6	0
6	男女共同参画社会推進事業	B	431	401	0.5	0
7	勤労者支援事業	B	4,301	3,000	0.3	0
8	商工業振興事業	B	290,608	48,246	0.5	0
9	国際交流事業	B	5,584	1,738	0.3	0.1
合 計			382,470	77,212	5.0	1.0

■特記事項

--

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	地域振興課	No.	1
事業名	広報・広聴事業		
総合計画の 体系	大分類	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	小分類	(1)	参画と協働のまちづくりの推進と住民自治の確立
目的	町の行政施策や行事、行政サービスなどの情報を、分かりやすい内容で住民の方々に届ける。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報おおぐち編集及び発行 ・ まちのカレンダー編集及び発行 ・ 町ホームページ管理 ・ 「何でも言ってちょ」の受付・事務処理 		
現在における 経過又は課題	<p>広報おおぐち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通じて必要な情報は似通ったものが多いため、紙面がマンネリ化している。 <p>ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H24年度にホームページシステムの更新を行い、ページ編集時の画像挿入、リンク設定などの操作性が向上した。 ・ 未更新のページがある。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<p>広報おおぐち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民にPRしたい施策等の特集で編集し発信するなど、広報おおぐちを活用する。 ・ 協働受託者、広報編集委員と協議し紙面の工夫、整理を行う。 <p>ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未更新ページの解消 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容	
4	町ホームページ管理 随時	
5		
6		
7		
8		
9		広報おおぐち 毎月 編集・校正 随時 広報編集委員との打合せ
10		
11		
12		
1		
2		
3		

□3年間の目標

目標	・ ・						
	項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	・ ・
H27 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	9,421	13,265	10,665
(内特定財源)		千円	2,607	3,547	4,189
人工	職員	人工	0.5	0.6	0.6
	臨時職員	人工	0.2	0.2	0.5
	計	人工	0.7	0.8	1.1

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
ホームページバナー広告料収入	495	
ふるさと基金繰入金	3,694	広報編集等協働委託料
合計	4,189	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
2-1-10(3)13-6-1	0	△2,052	ホームページの再構築作業が終了したため。
2-1-10(3)13-4-1	3,694	647	協働委託事業項目の見直し
2-1-10(3)13-11-1	933	△679	CMSの更新(クラウド)に伴い、HPのサーバ管理料が不要になったため。

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

広報おおぐち

NPO 登録団体 ZOOM との連携協力により、広報おおぐちに特集記事を3回掲載した。

- ・ 5月号：町のシンボルである桜について、その保存活動や地域産業資源としての紹介
- ・ 10月号：国民健康保険を題材に、町の医療費負担の現状と健康の大切さ、健康づくりを掲載
- ・ 11月号：図書館35年の歩みと、町内各学校長が薦める図書を紹介

ホームページ

情報化推進室の協力を得てリンク切れ等の確認、更新を行った。

■評価

広報おおぐち

NPO 登録団体 ZOOM と所管課が連携・協力し、特集という形で情報を住民の方に発信することができた。特集記事によって題材となった話題を、深みを持たせて伝えることができたと思っている。今後もこうした特集記事を続けて読み応えのある広報にしていきたい。

ホームページ

未更新ページを解消するには各課が掲載ページを適切に管理することが重要である。適宜に閲覧して、最新の情報を掲載していくよう周知していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	地域振興課	No.	2
事業名	地域情報化推進事業		
総合計画の 体系	大分類	4	人の知恵・技・情報が生きる元気コミュニティを創造する
	小分類	(1)	参画と協働のまちづくりの推進と住民自治の確立
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「元気なまちおおぐち」を積極的に情報発信する。 ・地域情報化の推進により「ひとにやさしいまちづくり」、デジタル技術による「アナログ社会のコミュニケーションを創造するまち」を目指す。 		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「あんしん・安全ねっと」運営管理 ・「Cyber Community おおぐち」運営管理 ・地域ICT利活用広域連携事業（ヒューマンリンクシステム） 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「あんしん・安全ねっと」 登録者数は増えているが、生活情報の配信が少ない。 ・「Cyber Community おおぐち」 「憩いの四季」との協働事業により動画、写真の配信を行った。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「あんしん・安全ねっと」 生活情報を積極的に活用し、町民にとって有用な情報を配信する。 ・「Cyber Community おおぐち」 「憩いの四季」との協働事業により町制60周年に向けますます元気になる大口町を記録、発信する。 ふれあいまつり、町民体育祭などは、当日参加できなかった方に様子を楽しんでいただけよう配信を行う。また五条川クリーンアップ、消防団小型ポンプ操法大会、消防出初式など、縁の下で大口町を支える活動も記録として残すとともに配信を行い、住民に広報していく。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・記録収集及び配信イベントを「憩いの四季」と計画 ※計画に従いビデオ、写真撮影、編集、配信を協働で行う。 ・「あんしん・安全ねっと」利用契約 ・次年度の記録、配信を計画するため各部課局に情報収集の依頼

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	2,034	1,662	1,788
(内特定財源)		千円	0	347	347
人工	職員	人工	0.4	0.4	0.3
	臨時職員	人工	0	0	0
	計	人工	0.4	0.4	0.3

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
ふるさとづくり基金繰入金	347	動画配信協働委託料
合計	347	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	2-1-10(4)14-1-1	882	126	緊急情報一斉配信の利用料

■特記事項

現在は写真、画像を CD、DVD で記録保存しているが、記録機器、媒体は早いサイクルで更新、進化していくので、記録保存方法について常に注視する必要がある。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

「あんしん・安全ねっと」

広報無線で発信する情報のうち所管課が希望するものを生活情報として配信した。また、保育園の緊急連絡についても所管課で配信できるようにして、電話による緊急連絡を減らせるよう負担の軽減を図った。

「Cyber Community おおぐち」

「憩いの四季」との協働事業により、各種事業や行事の様子を配信した。

■ 評価

「あんしん・安全ねっと」

生活情報の配信数が急激に増えるのではないかという懸念から、「急を要するもの」「定期的なお知らせでないもの」に限って発信することにした。所管課からの希望は予定より少なかったため、今後は状況を勘案しながら、発信する情報の幅を増やしていく。

また、急を要するものは所管課から単独で配信できるよう検討していく。

「Cyber Community おおぐち」

協働事業として配信が可能になったことは評価に値する。

今後は、蓄積されていくデータの整理・活用・保存を考えていかねばならない。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	地域振興課	No.	3
事業名	コミュニティバス運行事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(3)	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	公共交通がない本町に「暮らしの足」を確保する。 良好な生活環境（暮らしの足）を提供し、まちの活力に繋げる。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通推進会議事務局 ・ 運行契約事務 ・ 企業バス利用に関する協定事務 ・ 道路占用許可申請事務 ・ ダイヤ編成事務 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有料広告に係る事務 ・ 回数券・1日乗車券に係る事務 ・ コミュニティバスサポート協働事業 		
現在における 経過又は課題	<p>バスの利用者を増やし、かつ、満足度を上げる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日運行便・土曜日、日曜日の乗客数が伸び悩んでいる。それらの利用者を増やす。 ・ バスの利用者及び非利用者、両者の満足度を高める方法の模索が必要 		
平成 25 年度 の目標又は 改善策	<p>利用者数を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミバスサポート隊と協働で乗車のきっかけとなる企画を実施 ・ 毎日運行便のルート及びダイヤの見直しを検討 ・ 基幹ルート・北部ルートにおける新規協定締結企業の模索 <p>利用者の満足度を高める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスサポート隊と協働でアンケートによりニーズを把握し改善をしていく。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	バスサポ会議（通年） ・バスサポ協働事業企画① ・新規協定締結団体の模索（通年）
5	おでかけナビの作成、広報（通年）
6	
7	
8	バスサポ協働事業企画②
9	
10	
11	バスサポート隊と協働でアンケート実施（ふれあいまつり）
12	アンケートまとめ・ダイヤの見直し
1	
2	地域公共交通会議
3	ダイヤ改正

□3年間の目標

目標	・年間乗客 133,000 人					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標
乗客数（人）	120,000	121,561	130,000	131,000	132,000	133,000
運賃（円）	13,274,248	13,376,300	13,539,732	14,705,600	14,805,600	14,905,600

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	・車両の大きさを含め、より効率的な路線及びダイヤを検討する
H27 年度	・バスの便数を増やすため、より効率的なダイヤの改正

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	45,630	46,546	48,105
(内特定財源)		千円	9,274	8,210	8,201
人工	職員	人工	0.6	0.5	0.5
	臨時職員	人工	0.4	0.4	0.3
	計	人工	1.0	0.9	0.8

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
市町村振興事業費補助金	260	愛知県より
運行支援費収入	5,160	協定締結企業より
広告料収入	2,000	バス停・車内・ラッピング 広告料
ふるさとづくり基金繰入金	781	協働委託料
合計	8,201	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	バスサポート隊協働委託 1-2-1-11-(3-1-1)-13-4-5	781	481	乗車数集計業務やコミバスサポート隊 による事業が増加するため

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

○バスサポート隊と協働で実施したもの

- ・利用者数を増やすため、町内のイベントにバス利用を呼びかけスタンプラリーを実施
- ・町内のイベントにバスを利用しやすいよう「おでかけナビ」を作成
- ・親子での夏休みを利用した親子コミバスツアー（町内企業見学）を実施
- ・コミュニティバスをPRするため、ふれあいまつりでバス（実車）を展示し、写真コンテストを実施
- ・利用者のニーズを把握するため、ふれあいまつりでアンケートを実施

○その他の取り組み

- ・渋滞により遅延気味だったダイヤを実態に即したダイヤに改正した。
- ・基幹ルート上にバス停を1か所新設した。
- ・車いす利用者の乗降をしやすくするため、さくら総合病院（柏森駅行）バス停の乗降箇所にコンクリートを張った。

■ 評価

- ・バスサポート隊との協働により、利用者ニーズの把握、バスのPR、また利用者増につながる企画等を実施することができた。バスを身近なものとして認識してもらうことができたのではないかと考えている。今後は、把握したニーズを運行に反映するとともに、PRや企画により体験（バスの利用）していただいた方が継続利用者となるような施策の展開が必要である。
- ・ダイヤ改正、バス停増設などバス事業者としての環境整備を実施した。利用者ニーズを反映したものと評価している。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	地域振興課	No.	4
事業名	まちづくり活動推進事業		
総合計画の 体系	大分類	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	小分類	(1)	参画と協働のまちづくりの推進と住民自治の確立
目的	地域住民や活動団体、行政が共に育ち合い、役割分担しながら、協力できる機運を高めることで、豊かで質の高いまちづくりを推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体事務支援 ・町民活動センターの整備 ・元気なまちづくり事業 ・まちづくり道具箱整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 活動促進委員会 ・やろ舞い大祭・ふれあいまつりの開催 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動の拠点となる「町民活動センター」の充実 センターの機能『出会い・ふれあいの場』『つながりの場』を充実させるため、これまで活動センター利用協力団体代表者会として1年に1回開催していた連絡会議を平成24年度より『まちカフェ♪』として利用者交流会に改めた。以降、毎月開催している。新しいアイデアも提案されていることから、定期的な開催と共に『つながり』のツールの一つとして、より現実的に研究・検討を進める必要がある。 ・活動センターの運営母体の組織力強化 平成24年度よりセンターの運営母体である中間支援組織が法人格取得に向けた検討を着手したので継続支援する。 ・協働のルールづくり 活動団体と行政各課との協働事業が活発に行われている一方、協働に至った経緯によりそれぞれの関わり方は様々な状況である。よりよい協働を進めるためのルールを町全体でイメージする必要はあるが、手引書等の作成までには至っていない。 実務的な取り組みとして、行政との意見交換会やスキルアップ講座等で補完しているが、参加者数には伸び悩んでいる。ニーズに合った事業展開の工夫が必要である。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいまつり実行委員会事務局機能の充実 町内唯一の中間支援組織である町NPO登録団体『町民活動まかせてネット』にふれあいまつり実行委員会事務局を協働委託する。 ・新しい地域自治組織によるまちづくりの実践に向け、活動団体と地域とが連携するきっかけづくりを行う。 中間支援団体とともに交流会等を開催し、活動団体と地域とが無理なく自然に集うことのできる事業を企画・実施する。 ・団体支援の制度が活かされたものになるよう、活動団体や中間支援組織と共にしくみを再検討する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容	
	町民活動センターの整備	

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・団体も行政も共に協働を理解した上で事業展開できるようになり、まちの限りある資源が町内で循環できるようにする。 ・町民活動センターを拠点に個々の団体がつながり合い、交流や連携が生まれるようにする。 ・行政と団体の連携・協働に加え、活動団体と地域の交流・連携が実現できるようにする。 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標
協働のルール（検討の対象）	行政	行政	行政&団体	団体	町全体	
中間支援団体の法人化			1	1		

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・元気なまちづくり事業や行政からの協働委託事業により、団体活動が活発になり、活動センターをより効果的に活動できるようになる。 ・ひとつの活動団体として、地域（地区）も活動センターで行われる事業等に参加できるようになる。
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各地域において、新しい地域自治組織によるまちづくりの実践的な取り組みの一つとして、地域と市民活動団体とが連携した事業を実施する。

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	7,207	9,887	11,436
(内特定財源)		千円	4,470	6,751	10,550
人工	職員	人工	1.6	1.5	1.4
	臨時職員	人工	0.1	0	0.1
	計	人工	1.7	1.5	1.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
ふるさとづくり基金	1,000	元気なまちづくり助成事業
ふるさとづくり基金	9,550	協働委託事業
合計	10,550	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	町民活動センター活性化事業 協働委託料	4,800	799	利用者の増加によりコーディネート業務を拡大
	ふれあいまつり事業 協働委託料	3,000	3,000	2年間の受付事務代行業務並びに看板作成業務を経て、実行委員会事務局を委託。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

○ふれあいまつり実行委員会事務局機能の充実

町内活動団体と行政で組織した『ふれあいまつり実行委員会』を、町と協働委託した『大口町 NPO 登録団体町民活動まかせてネット』が企画から運営まで実施した。

○活動団体と地域とが連携できるきっかけづくり

・活動センターにて実施する事業スキルアップ講座等は、NPO、地域に関わらずすべてのフィールドで活動している団体を対象に実施した。

・町内3地域において地域自治組織が設立されたことをきっかけに、毎年開催している『まちづくり協働フォーラム』を地域自治組織、町民活動まかせてネット、町で共同開催した。

○町民活動センターの運営母体の組織力強化

平成26年1月、『特定非営利活動法人まちなっと大口』が認証を受けた。前身となる『町民活動まかせてネット』の理念と活動を継承し、4月より新たにスタートをきる。

■ 評価

・ふれあいまつり実行委員会の事務局を「町民活動まかせてネット」が担ったことで、各団体との連絡・調整、情報の一元化などの事務局機能が充実した。4月から法人となった「まちなっと大口」との事業割合を見直し、さらに事務局機能の強化を図りたい。

・活動センターの仕掛けにより、NPO 団体と地域との距離が少しずつ近づいていると感じる。お互いを尊重しつつ、一緒に問題を解決していくパートナーとなるよう、今後も活動センターのきっかけづくり、事業の企画・運営を支援していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	地域振興課	No.	5
事業名	活動団体支援事業		
総合計画の 体系	大分類	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	小分類	(2)	地域に根付いた多様な住民活動の促進
目的	<p>地域振興団体（子ども会連絡協議会・老人クラブ連合会・さくらメイト）の自主性と活動理念を尊重し、まちづくりや地域づくりに寄与する団体活動を支援する。</p> <p>・老人福祉センターのコンセプトに基づき、施設の活性化を図る。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センター管理運営業務 ・老人クラブ事務 ・子ども会事務 ・さくらメイト事務 		
現在における 経過又は課題	<p>老人福祉センター 「憩いの湯」や「さくら屋」等、サービス提供に不可欠な各種設備の老朽化への対応</p> <p>老人クラブ 高齢者数が増加しているにもかかわらず、会員数が横ばいである。</p> <p>子ども会 役員が1年交代のため自発的事業がなく「こなし作業」になっている。</p>		
平成25年度 の目標又は 改善策	<p>老人福祉センター 中央公民館施設の耐震改修工事と調整を図りながら、緊急性の高いものから修繕を計画する。</p> <p>老人クラブ 高齢者が元気で活躍することが介護予防につながる。会員増に向けて、非会員が参加しやすい事業の実施を検討する。</p> <p>子ども会 今まで行っている事業を減少させず継続開催できるようサポートする。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～	尾張北地区老人クラブ大学講座 指定管理者評価委員会中間評価 随時 老人福祉センター修繕

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	・ ・
H27 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	9,186	9,148	9,552
(内特定財源)		千円	0	0	540
人工	職員	人工	0.6	0.8	0.6
	臨時職員	人工	0	0	0
	計	人工	0.6	0.8	0.6

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
高齢者地域福祉推進事業費補助金	540	老人クラブ(県補助)
合計	540	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	2-1-1(5)14-2-1	144	24	利用実績に合わせて
	2-1-1(5)19-2-2	1,650	150	平成 25 年度に当番町として、尾張北地域老人クラブ大学講座を開催するため

■特記事項

○老人福祉センター「憩いの四季」の指定管理委託料の考え方

老人福祉センターの有する次の施設機能について、利用者に安全・安心で快適な施設サービスを提供できる最小限の維持管理経費を積算し予算計上している。

- ・「憩いの湯」の維持管理 [内訳：真空式温水ヒーター等保守点検料、配管洗浄委託料、DPD 試薬 No.1 購入費、水質検査委託料、次亜塩素酸ソーダ等水質管理、集毛器パッキン等風呂用消耗品]
- ・「憩い処さくら屋」の維持管理 [内訳：食品衛生協会等衛生費、玄関マット等リース料、製氷機等保守点検委託料、食器洗浄機洗剤等消耗品、レンジフード清掃費]
- ・「憩いの湯」「憩い処さくら屋」を除く施設全体(貸室やトイレ等)の維持管理 [内訳：事務長費用弁償、傷害保険等保険料、通信費、NHK受信料、事務用消耗品、コピー機リース料、床清掃、玄関マット等リース料、施設用消耗品、健康遊具公園殺虫剤散布]

※平成 25 年度の「大口町公の施設指定管理者評価委員会」による中間評価に向け、同委員会からも指摘を受けている検討課題(スタッフの高齢化に対応した組織強化や収入増加策等)について、憩いの四季から提示されている計画が実施・達成できるようサポートするとともに、その成果によっては、新たな解決策を共に考え、実施をサポートする。これに伴い、スタッフの費用弁償額の見直し等、必要な改善が図られることから、施設管理運営に係る全体経費を再検証し、適正な指定管理委託料を提案していく。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

○老人福祉センター

- ・故障個所の修繕(風呂・照明灯)、節水型シャワー水栓への交換を行った。
- ・指定管理者評価委員会中間評価をふまえ、『老人福祉センター 憩いの四季』スタッフの救命講習会を実施した。併せて『緊急時対応マニュアル』の検討に入った。

○老人クラブ

5月に尾張北地区(岩倉市、犬山市、江南市、扶桑町、大口町)老人クラブ大学講座を本町で実施した。大口町老人クラブ連合会役員、理事を中心に実行委員会を組織し、地区会長を始め、多くの会員の協力を得て、企画・運営等をすべて実施し、成功裏に終わった。

○子ども会

- ・これまで参加数が減少傾向にあった『ふれあいまつり』に、子ども会連絡協議会として、多くの単位子ども会が参加した。ブースは長蛇の列となり、多くの親子連れで賑わった。

■ 評価

○老人福祉センター

定期点検と部品交換により突発的な故障が起きないように事前に対処しているが、それでも修繕を要する故障は起きている。緊急修繕に追われ、計画的な改修ができない現状がある。

○老人クラブ

老人クラブ大学講座で発揮した会員の皆さんの企画力・交渉力・調整力・運営力を生かして、会員拡大につながる事業を展開することを期待したい。

○子ども会

減少傾向にあった子ども会事業に25年度は「ふれあいまつり」への参加が加わった。会長のリーダーシップによるところが大きいですが、今後もこうした取り組みが継続していくよう後押しする。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	地域協働部地域振興課	No.	6
事業名	男女共同参画社会推進事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(2)	一人ひとりが尊重される社会・地域ぐるみの子育て環境の実現
目的	男女が共に尊重し合い、協力し合い、個を尊重できるまちを目指し、「男女が共に生き共に輝く まちづくり」に取り組む。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 啓発事業協働事業 ・ 男女共同参画プラン進捗状況調査 ・ 各種調査 ・ 男女共同参画推進会議 		
現在における 経過又は課題	男女共同参画社会の実現に向けた地道な啓発をしているが、啓発の効果測定が難しい。また、時代が変わり男女共同参画に対する考え方も変わってきている。時代に合った地道な啓発を継続していく必要がある。		
平成 25 年度 の目標又は 改善策	おおぐち男女共同参画プランの基本目標「男女が共に生き 共に輝く まちづくり」を実現すべく、おおぐち男女共同参画懇話会と協働で、なじみ易く興味をもっていただける内容の男女共同参画に関する啓発を実施していく。		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	協働契約締結 毎月 広報おおぐちに啓発記事を連載 研修会①を開催 講演会を開催 研修会②を開催
3	啓発紙ハモーンを作成

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 						
	項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	234	1,105	431
(内特定財源)		千円	234	657	401
人工	職員	人工	0.3	0.5	0.5
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0
	計	人工	0.4	0.6	0.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
ふるさとづくり基金繰入金	401	協働委託料
合計	401	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	2-1-11(6)8-1-3	30	△118	昨年度は第三次おおぐち男女共同参画プランを作成したため
	2-1-11(6)11-4-1	300	△300	〃
	2-1-11(6)13-4-3	401	△156	啓発冊子を作成しないため
	2-1-11(6)13-4-6	100	△100	昨年度は第三次おおぐち男女共同参画プランを作成したため

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

◎おおぐち男女共同参画懇話会との協働で啓発事業を実施

- ・多くの方に男女共同参画に興味を持っていただけるよう、啓発記事として、『△Time』を広報おおぐちに毎月連載した。
- ・第三次おおぐち男女共同参画プラン『みんなが楽しい暮らしづくり』をテーマとし、子育て支援講座と共食講座を実施した。

◇子育て支援講座

講演「13年後（反抗期）に困らない子育てのヒント」

4か月から2歳児のお子さんとその保護者が対象

◇共食講座

講演「大人も子どもも共に育つ“食育”とは」

本町の現状を把握するため、町内小学校の5年生を対象にアンケートも実施

■評価

広報おおぐちへ啓発記事の連載、リーフレットの発行、講演会の開催などの啓発活動を、おおぐち男女共同参画懇話会との協働で実施した。意識改革を主とする事業であるので実際の成果は見えにくいですが、繰り返し地道に啓発活動を重ねていくことが肝要と考えている。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	地域振興課	No.	7
事業名	勤労者支援事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(2)	環境と共生した産業の発展
目的	町内の住民や勤労者の生活の向上、福祉の増進及び親睦を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労青少年の日大口町大会開催 ・ 勤労者協議会への補助 ・ 融資の運用資金に充てるための預託事業 ・ 労働関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職フェア開催 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労青少年の日大口町大会は町内事業所が恒例事業として組み込んでいただけており勤労青少年の支援として寄与しているため継続していきたい。 ・ 勤労者協議会のバスツアーは継続して行われ会員の福祉増進に寄与している。 ・ 預託を行っているが融資実績がない。「勤労者住宅資金」については町民優遇のある内容に制度の見直しを行い問合せはあるが、現在融資実績がない。 ・ 4市2町で就職フェアを行っているが、町内の参加企業が少なく求職者へ町内企業のPRの場となっていない。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労者協議会の事業継続。 ・ 預託を行っている「勤労者住宅資金」「勤労者等生活資金」の利用実績がないため、制度の啓発を行う。 ・ 町内の就職フェアを実施する。 町内の中小企業を中心に参加していただき、求職者と企業を結びつけるマッチングや事業者開催の「就職のためのセミナー」等を開催し、町内求職者の地元就職につなげる。また、それにより町内事業所のPRの場となり企業支援になる。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	就職フェア打合せ・事業者と求職者の交流会 就職フェア・セミナー開催 勤労青少年大口町大会開催 勤労者協議会事業開催 ○随時 ・融資制度・雇用労働相談等の情報の啓発（広報紙、ホームページ掲載）
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

□3年間の目標

目標	・ ・						
	項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	・ ・
H27 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	33,599	4,214	4,301
(内特定財源)		千円	3,000	3,000	3,000
人工	職員	人工	0.3	0.2	0.3
	臨時職員	人工	0	0	0
	計	人工	0.3	0.2	0.3

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
勤労者住宅資金融資預託金回収金	2,000	預託金
勤労者生活資金融資預託金回収金	1,000	預託金
合計	3,000	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
5-1-1(3)8-1-1	46	46	就職フェアのためのセミナー講師料
5-1-1(3)11-4	75	75	就職フェアのためのチラシ等

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 市内の中小企業の参加を中心に、大口町就職フェアを開催した。
参加企業数 23 社、参加求職者数 83 名で合同企業説明会を行い、NPO 法人、ハローワーク等の協力を得て就職支援セミナー、個人相談、職業適性検査を実施した。

■ 評価

- ・ 就職フェア
5 月開催は遅いのではないかと心配の声もあったが、求職者のアンケートをみると好意的な意見が多かった。地元中小企業にスポットを当てた就職フェアであったことが奏功したものと判断している。26 年度は扶桑町との合同で就職フェアを実施する予定である。
- ・ 「勤労者住宅資金」「勤労者等生活資金」は案内不足。年 1 回は広報に案内記事を掲載していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	地域振興課	No.	8
事業名	商工業振興事業		
総合計画の 体系	大分類	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	小分類	(2)	環境と共生した産業の発展
目的	活発な企業活動を支援するため中小企業者に対する助成		
事務内容	商工業振興事業 ・融資関係事務 ・補助金事務 ・商工会補助金事務		
現在における 経過又は課題	<p>減税基金を原資にした県補助制度と連携する「町内企業再投資促進補助金」を創設し、平成24年度は3件の事業認定をした。しかし、この補助金は投資規模が大企業25億円、中小企業1億円以上の規模しか該当しなく、しかも現段階では平成26年度内に認定したものの限られている。そのため、長期的視野に立った企業支援策が求められている。</p> <p>企業支援 ・町内企業の把握ができていない。</p> <p>・補助対象融資の期中管理が適切に行われている。</p> <p>商工会 ・組織率の算出方法に変更があり愛知県補助金が減額になる可能性がある。商工会会員の増加が課題である。</p>		
平成25年度の 目標又は 改善策	<p>中小企業の投資場面に対応した企業支援策(奨励金交付)を検討する。</p> <p>企業支援 ・町内企業の企業情報等を把握するためアンケート等によりデータ収集する。</p> <p>商工会 ・会員増加になるような事業等を商工会と協議していく。</p> <p>・3市2町での創業者支援セミナーを継続開催する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4~	(随時) ・完済情報により返還事務 ・認定事務及び補助事務 ・商工会と協議 ・企業情報を収集する

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目(単位)	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	95,676	78,448	290,608
(内特定財源)		千円	42,000	42,000	48,246
人工	職員	人工	0.7	0.4	0.5
	臨時職員	人工	0	0	0
	計	人工	0.7	0.4	0.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
商工費県補助金	6,246	中小企業 1/2 補助。 町内企業再投資促進補助金
小規模企業等振興資金融資預託金 回収金	40,000	預託金
商工組合中央金庫預託金回収金	2,000	預託金
合計	48,246	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	7-1-1(4)19-2-12	212,492	212,492	町内企業再投資促進補助金(24.9 施行) の交付予定額。新規補助。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

・ 企業支援策

小規模投資に対応する「企業立地促進事業奨励金」、中小企業支援として「中小企業支援事業補助金」を創設した。平成25年度10月から施行し、企業立地促進事業2件(事業認定)、中小企業支援7件の補助を行った。支援策の策定にあたっては、中小企業者団体の会員に支援策(案)について意見を伺った。

・ 商工会

会員増加と地域経済の活性化を図るため、商工会が「おおぐちプレミアム商品券事業」を行った。141店舗が参加し、5500万円分(プレミアム分500万円を含む)を発行した。

・ 創業支援セミナー

9月と1月に、江南市において3市2町での創業支援セミナーを実施した。セミナーの内容は、創業の基礎知識と計画づくり、創業者の体験談、資金計画。

■ 評価

・ 企業支援策

平成25年度の企業立地促進事業の対象期間は12月末までの3カ月間であったが、4件の問い合わせがあり2件を事業認定した。中小企業支援も予定した以上の申請があった。設備投資の拡大、中小企業の経営改善に資する事業であることが、実績が示す結果となった。様々な機会を通して補助制度の活用を広く周知していく。

・ 商工会

商品券事業への参加のため13件の新規加入があり、会員拡大に一定の成果は認められる。

・ 創業支援セミナー

大口町からは9月に1名、1月に5名の参加者があった。創業支援のメニューとして、共同開催を続けていく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	地域協働部地域振興課	No.	9
事業名	国際交流事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(2)	一人ひとりが尊重される社会・地域ぐるみの子育て環境の実現
目的	国際理解を深め、多文化共生のまちづくりを推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室支援 ・国際交流協会への補助 ・ホームステイ補助金事務 ・国際交流事業推進委員会 ・多文化共生啓発事業協働事業 <ul style="list-style-type: none"> ・フレンドシップ継承協働事業 ・海外派遣協働事業 ・多文化共生に向けた仕組み創り協働事業 ・あいち医療通訳システム負担金 		
現在における 経過又は課題	<p>最近では、年に数件ではあるが、町内在住の外国人から日本語教室や就職に関する問い合わせが寄せられるようになっている。</p> <p>多様な価値観をもった外国人にとっても暮らしやすい多文化共生社会の実現が課題となっている。</p>		
平成 25 年度 の目標又は 改善策	<p>海外派遣の事前研修、報告会を効果的にするために、企画、運営を以前の参加者が協力して実施している。その事業をはじめとして、多文化共生社会の実現に寄与できる次世代の人材育成を継続していく。</p> <p>また、NPOやボランティアや海外派遣の参加者たちが協力して、外国人が気軽に訪問、相談できる場所創りを目指す。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	多文化共生啓発協働事業（随時）
5	・第1回国際交流事業推進委員会 ・第2回国際交流事業推進委員会
6	フレンドシップ継承協働事業（田植え）
7	・多文化共生に係るボランティア募集 ・多文化共生相談窓口（仮称）に係る会議開催（随時）
8	事前研修・海外派遣
9	報告会準備
10	
11	フレンドシップ継承協働事業（稲刈り） ・海外派遣報告会 ・第3回国際交流事業推進委員会
12	第4回国際交流事業推進委員会
1	
2	
3	第5回国際交流事業推進委員会

□3年間の目標

目標	・ ・						
	項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	・ ・
H27 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	5,022	5,111	5,584
(内特定財源)		千円	859	1,282	1,738
人工	職員	人工	0.4	0.3	0.3
	臨時職員	人工	0.2	0.2	0.1
	計	人工	0.6	0.5	0.4

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
国際交流事業基金運用収入	15	
海外派遣参加者負担金	824	87,000*2名 + 65,000*10名
ふるさとづくり基金繰入金	899	協働事業 285+100+81+433
合計	1,738	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	8-1-1-1-(2-1-1)-13-4	433	433	多文化共生を推進する仕組みをNPOと協働で創る

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

○海外派遣事業の事前研修・報告会等への協力を通じた人材育成

- ・海外派遣参加者で構成される『大口町 NPO 登録団体もやい』との協働で、海外派遣事業の事前研修の企画から運営、また報告会のサポートを実施した。もやいメンバーは、毎年増加しており、町内で行われる様々なイベント等に参加している。
- ・愛知県国際交流協会が主催した『五感で世界旅行』においても、『もやい』が、愛知万博フレンドシップ国であった『ナイジェリア』について五感を使って紹介し、多くの参加者で賑わった。

○外国籍住民の居場所づくり

- ・『町民活動まかせてネット』を中心に、日本語教室ボランティア、『もやい』『河北エコ・リサイクルの会』『サラダボールC o.』にて、多文化共生社会のあり方について考えるグループ『多文化共生レインボー』として、外国籍住民との交流の場『ワールドスポーツ・フェスティバル』を実施した。
- ・愛知県国際交流協会の支援を受け、日本語教室ボランティア養成講座を実施した。3か月の体験講座を経て、平成26年4月より、大口町日本語教室『Cereja カフェ』として開講する。

■評価

○人材育成

海外派遣参加者で構成される『大口町 NPO 登録団体もやい』は、大学生、高校生が中心となって、多文化共生、住民主体によるまちづくりを体現している。海外派遣事業をきっかけに、その後の活動を通じて、国際理解を深め、多文化共生のまちづくりを推進する次世代の人材育成につながっている。

○外国籍住民の居場所づくり

日本語教室を拠点として外国籍住民が集える場所ができた。将来的には日本語の習得のみならず、交流の場、相談の場にも発展することを期待している。